

## 「元気アップ推進事業計画」について

### 【これまでの経過】

平成20年6月～9月

#### 「元気アップ推進事業計画」策定に向けた専門部会の開催

「元気アップ推進事業計画」策定に向け、大阪市総合計画審議会に、「経済」「文化・観光」「こどもの生きる力」「安全・快適な暮らし」の4分野について、専門部会を設置して、それぞれ議論を実施。

平成20年10月30日

#### 「元気アップ推進事業計画」策定に向けた中間取りまとめを公表

専門部会での議論を踏まえ、4分野における施策の方向性を「中間取りまとめ」として示す。

平成20年11月6日（木）～12月26日（金）

#### パブリックコメントの実施

中間取りまとめについて、広く市民からの意見を募集。

### 【今後の予定】

各専門部会では今後、具体的な成果目標や工程表などを議論し、その状況を踏まえ、年度末に「元気アップ推進事業計画」を策定する予定。

～「元気な大阪」の基礎をつくります～

# 「元気アップ推進事業計画」策定に向けた 中間取りまとめ

平成20年10月

大 阪 市

## はじめに

平成17年に策定した大阪市の総合計画では、「大阪はええとこや」ということをみんなが誇りを持って言えるまちをめざしています。

このようなまちの実現には、何よりもまず大阪を元気なまちにすることが先決です。そのためには、現在の社会経済状況を踏まえながら、いま一度、大阪に関わる人々がまちづくりの目標として共有する「大阪市基本構想」(別紙)の理念に立ち返って、大阪の元気を生み出すためには何ができるのかを考え、さまざまな人の知恵と力を結集して取り組んでいく必要があります。

## 基本的な考え方

『元気アップ推進事業計画』は、将来にわたって大阪を元気にする推進エンジンとして、「経済」「文化・観光」「こどもの生きる力」「安全・快適な暮らし」の4つの分野に重点を置き、今後3年程度を目途に優先的・重点的に取り組む施策・事業を示すものです。

この『元気アップ推進事業計画』策定に向けた中間取りまとめは、大阪市総合計画審議会・専門部会でご議論いただいた内容を踏まえ、計画の核となる各分野の取組みの目標や施策の方向性を明らかにするものです。

今後、この中間取りまとめをもとに、各方面から幅広くご意見をいただき、年度末には具体的な施策・事業を含んだ『元気アップ推進事業計画』を策定します。

## 取組みの視点

この計画では、まず「行政は、市民・企業等の皆さんの主体的な活動を支援する」という視点を重視します。そして、大阪が持つ産業・経済や歴史・文化、地域コミュニティなど優れた資源やポテンシャルに着目し、「人や企業等が創造力を発揮し、新たな魅力や価値を生み出すことができる環境を整える」ことに重点をおいています。

計画の推進にあたっては、定期的に施策・事業の進捗状況を把握し、その効果を見極めながら軌道修正をするなど、柔軟に対応していきます。

# 『売り』づくりが大阪経済全体の元気を高める「経済力」アップ

## (取組みの目標)

成長への強い意欲を持つ大阪のものづくり企業が高い技術力や課題解決力を発揮できるよう、ニーズに応じたきめ細かな支援を実施します。そうすることで、これらの企業が新たな製品開発や海外も視野に入れた多彩なビジネスを展開し、大阪経済全体が元気になることをめざします。

## (施策の方向性)

### ▶ グローバル化に対応できる大阪の『売り』づくり力\*」を伸ばします

中小企業がグローバル化する市場動向を的確に反映した製品開発ができるよう、コーディネート機能やアドバイス機能を強化し、成長するアジアの活力を大阪経済に取り込むという視点から、海外への事業展開に向けた支援策も充実します。

※ 「売り」づくり力:ものを確実に売るために、製品開発の段階から顧客のニーズや市場動向を見捉えたものづくりを行う力のこと

### ▶ 大阪の技術力を磨き、「課題解決型ものづくり都市」を実現します

市場競争力のある高付加価値型ものづくりを推進するため、工業研究所が産業創造館や関係機関と連携し、顧客の求める技術的課題を解決できる中小企業の集積を図るような取組みを進めます。

さらに、先進的なものづくりで急成長している中堅企業と中小企業の連携等を中心としたものづくり活性化策を検討します。

### ▶ 元気な企業の裾野を広げます

新たな事業展開を考えるものづくり企業の諸課題に迅速に対応するため、区役所等身近な施設や、民間の組織・人を活用して、ものづくり支援の施策や情報を提供する仕組みを充実します。

## こんな取組みを進めます

### ▶ 新たな販路開拓につながる『売り』づくりの強化

国内のみならずアジア諸国の市場動向や詳細なニーズを熟知した企業の営業経験者OBなどの協力を得て、「売る」という視点から製品開発を行うための支援や、見本市への出展サポートなど、幅広い事業展開を総合的に支援します。

## 地域の魅力を発掘し、大都市大阪の魅力を磨く「文化・観光力」アップ

### （取組みの目標）

市民の皆さんとともに、身近な地域の資源を再認識・再発見し、新たな文化を生み出すことで、地域の魅力を高めます。また、世界に誇る歴史や文化資源を活かした大阪ならではの文化・観光の魅力づくりに取り組み、それらを効果的に発信することによって、観光の振興につなげます。

### （施策の方向性）

#### ➡ 身近な地域の文化を発見し、育て、大阪の魅力を高めます

身近な地域の歴史や文化、自然環境などの資源を発掘し伝える市民の皆さんの活動と連携・協働することを通じて、大阪の魅力を高め、観光にもつなげる取組みを推進します。

#### ➡ 大阪ならではの多彩な魅力を楽しめるモデルゾーンを創出します

官民連携の取組みが進む「水の回廊」をはじめとした大阪固有の資源の魅力をより高めるため、モデルゾーンを設置してさまざまな取組みを先導的に実施し、その成果や課題を踏まえて、他のエリアへ拡大を図ります。

また、文化・芸術施設の集積が見られる中之島地域などで、公園、水辺、公開空地などを活用して、誰もがいつでも芸術・文化・歴史に触れられる環境づくりを進めます。さらに、大阪の歴史や文化を感じられる大阪城エリアで、既存施設等を活用した集客魅力の向上に取り組みます。

### こんな取組みを進めます

#### ➡ 「コミュニティ・ツーリズム\*」の推進

市民の皆さんが取り組む地域の文化的・歴史的資源の発掘、大阪人のホスピタリティを活かした「まちあるき」などによる地域の魅力紹介、それらを通じた来訪者などとの交流の促進など、「コミュニティ・ツーリズム\*」の活動を支援します。

※ コミュニティ・ツーリズム：大阪固有の観光資源である歴史、文化、食、人などを活かして、大阪ならではの地域の魅力やまちの人々の物語を、大阪人が「まちあるき」などを通じて楽しみながら伝え、来訪者がその人達との交流・体験をする観光スタイル

#### ➡ もと市立博物館の活用検討

大阪城エリアを訪れるビジターの利便性を向上し、エリア全体の魅力を一層高めるため、民間事業者によるもと市立博物館の活用方策などを検討します。

# こどもの個性と才能を大阪のまち全体で育む「こどもの生きる力」アップ

## (取組みの目標)

大都市・大阪ならではの多様な資源の集積や地域コミュニティを活かし、社会総がかりでこどもたちの学ぶ意欲を高め、個性や才能を伸ばし、将来の大阪の元気の源となる人材を育てます。

## (施策の方向性)

### ▶ こどもたちの「生きる力」の基礎を支えます

在宅子育て家庭への支援や保育所・幼稚園での活動を通して、就学前のこどもたちが、基本的な生活習慣やコミュニケーション力の基礎などを身につけることができるよう取り組みます。

また、就学したこどもたちが、自分に自信を持ち、学ぶ楽しさや学ぶ意欲を高められるよう、基礎学力の向上を図るとともに、自然体験や職業体験など多様な学習機会を提供します。

### ▶ さまざまな個性と才能を見つけ、伸ばします

こどもたち一人ひとりのさまざまな個性と才能を見つけ伸ばすことができるよう、大都市・大阪ならではの多様な社会資源の集積を活かしたプログラムを実施します。

### ▶ 学校の教育力をアップし、「元気な学校」をつくります

多様な外部人材の活用など、家庭・学校・地域が連携して、学校が抱える課題の解決を支援する仕組みづくりを進めます。

また、こどもたちが自分の意見を発表し議論できるといったコミュニケーション能力などを高められるよう、教員の授業力の向上を図り、元気な学校をつくります。

## こんな取組みを進めます

### ▶ 一人ひとりの確かな学力を確実に伸ばす指導の充実

習熟度別少人数授業を小学校3年生から中学校3年生まで継続して実施することで、一人ひとりの児童生徒に応じたきめ細かな指導を充実します。

### ▶ 個性と才能のあるこどもを伸ばすプログラムの展開

企業や大学・専門学校、文化・スポーツ施設などと協力して、学問・文化・スポーツ・芸術などさまざまな分野で、こどもたちの才能の芽を見つけて育てる多彩な体験機会を提供します。

## 地域の身近な取組みが大きな成果につながる「安全・快適な暮らし力」アップ

### (取組みの目標)

環境・防災の分野では、暮らしの中での小さな取組みや支えあいが必要な力を発揮します。そこで、環境・防災に関わるさまざまな活動を支援するとともに、地域の特性に応じたモデル的な取組みを推進し、人々が安心して活動できるまちをつくります。

### (施策の方向性)

#### ▶ 「安全・快適なまち」を市民の皆さんとともに実現します

大阪に関わる人や企業等の防災・環境に対する意識が高まるよう「目立つ所で」「目立つ時期に」シンボルプロジェクトを実施し、地域での身近な取組みへと広げることにより、全市的なムーブメントにつなげます。

#### ▶ 身近な取組みを通じて環境に優しい低炭素社会をめざします

屋上緑化や壁面緑化、ごみの減量など、日常的に実施できる身近でわかりやすい取組みを、成果が目に見えてわかる「見える化」を意識しながら、市民の皆さんとともに推進します。

#### ▶ 地域特性に応じた防災まちづくりを推進します

地震などの災害時には自助・共助の取組みが重要であるため、昼間流入人口の多い都心部、昼間に防災の担い手が不足する住宅地など、地域特性に応じた防災活動のモデル化を進め、災害時に互いに助け合えるまちづくりをめざします。

また、災害発生時に避難所となる学校園や防災対策拠点となる区役所・消防署の耐震強化を図ります。

### こんな取組みを進めます

#### ▶ ヒートアイランド現象の緩和をめざしたムーブメントの創出

市役所本庁舎をモデルに、建築物の温度上昇抑制効果があるサツマイモを屋上で栽培するほか、庁舎周辺でドライミストを散布するなど多様な取組みを推進し、ヒートアイランド対策に取り組む機運を盛り上げます。また、区役所等の公共施設でも、ゴーヤなどを利用した壁面緑化（緑のカーテンづくり）などを進めます。

#### ▶ 帰宅困難者を含めた都市型防災システムの構築

大阪に通勤・通学している人など、大規模災害時には帰宅できない人（帰宅困難者）が多く発生する可能性があります。そこで、滞留者の誘導や帰宅困難者に対する災害発生初期段階の情報提供など、企業と行政がともに取り組む総合的な防災システムづくりを進めます。

# 大阪市基本構想（抄）

平成17年3月29日議決

## 策定の趣旨

この基本構想は、大阪がめざすべき将来像を明らかにし、大阪市政の方向を定めるにあたっての基本的な考え方とすると同時に、都市活動の主体である市民をはじめ、大阪に関わるさまざまな人々が、ともにまちづくりに取り組むために共有する目標として策定します。

## めざすべき将来像

めざすのは、「大阪はええとこや」と、みんなが誇りをもって言えることです。

大阪に集い、暮らし、活動する人々が、互いに人権を尊重し、将来にわたる安心を感じ、自らの夢に挑戦できるまち。

平和な社会の確立や、地球環境問題の解決などが課題となるグローバル社会の中で、世界の都市とともに持続的に発展するまち。

そんな大阪にするために、3つの都市像を掲げ、日本社会の発展をリードしてきた歴史ある大阪の蓄積を生かし、人々が互いに力をあわせ、未来を切り開いていきます。

- アジア交流圏の拠点として都市の活気にあふれる大阪
- 人が集まり、育ち、新しいものを生み出す大阪
- 暮らしたい、訪れたい、魅力あふれる大阪